



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2006.6

No. 266

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



高麗川の野鳥

藤掛保司(川越市)

身近な清流で野鳥を観察できる、坂戸市・高麗川をご紹介します。埼玉県支部では、年3回、3月・6月・9月の休日に探鳥会を開催しています。当支部の探鳥会は公共交通機関利用が原則ですので、東武東上線坂戸駅乗り換え、東武越生線川角駅前に午前9時に集合です。川角駅前から高麗川沿いに向かい、多和田橋・天神橋・城山橋と渡つての、片道約3kmのコースです。

12年間の行事報告から

1994年から12年間分の行事報告を、支部報『しらこぼと』からまとめてみました。

探鳥会での観察種数12年間の平均は、3月39種、6月32種、9月29種でした。

12年間33回の探鳥会で、100%の出現鳥は、キジバト・カワセミ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・スズメ・ムクドリ・ハシブトガラスの7種類。

特に感心したのは、水辺の宝石と喜ばれているコバルトブルーのカワセミと、日本固有種のセグロセキレイが毎回観察できたことです。これは驚きでした。

1回のみでの出現鳥は、ササゴイ・コガモ・オカヨシガモ・ミサゴ・ハヤブサ・クイナ・オオバン・ツツドリ・ビンズイ・ミンソザイ・トラツグミ・アカハラ・エゾビタキ・マヒワ・コムクドリの15種類。

特に珍しい野鳥ではありませんが、高麗川に行くことこんな出会いがあるのかと、期待が膨らみます。



キセキレイ(本橋紳浩)

季節の野鳥

3月は、冬鳥のツグミ・ジョウビタキ、そしてウグイスの鳴き声は心を和ませてくれます。

梅の花を観賞したり、香りを楽しんだりします。足元にはオオイヌノフグリやホトケノザの花も咲いています。

6月は、カイツブリ・カルガモ・キジ・バン・コチドリ・イカルチドリ等の子育ての様子が期待できます。堀久江さん(支部リーダー)がビデオ撮影し、NHKテレビでも紹介されました。

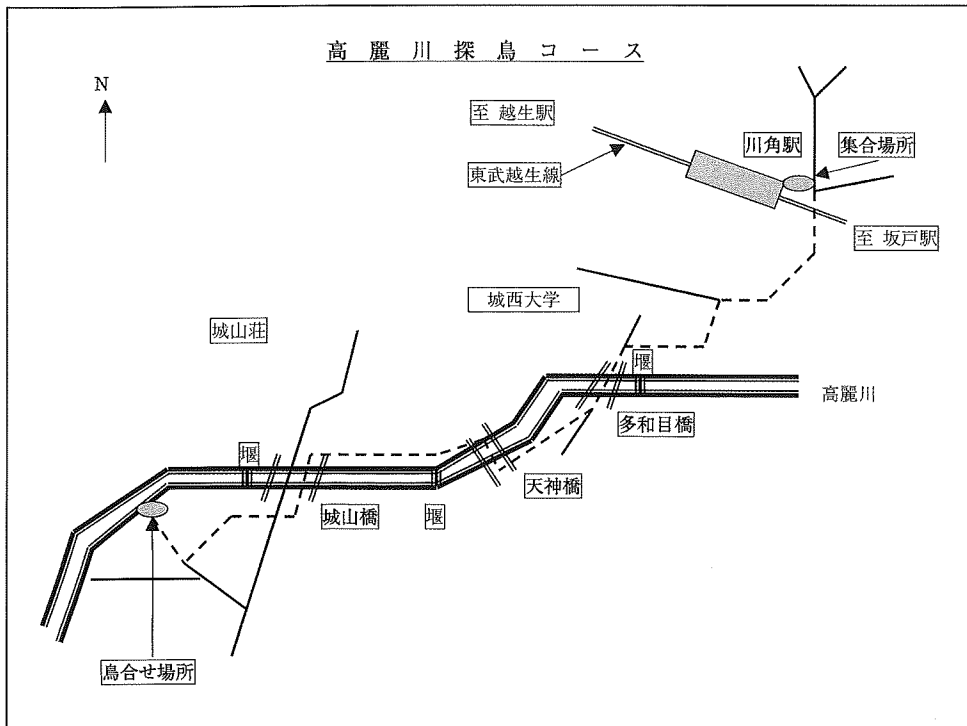
そして、カッコウや・ホトトギスの声を鳴きながらのんびりと河川敷を歩きます。竹の子や梅の実も観賞できます。

9月は、モズの高鳴きとサシバの渡りです。サシバの渡りに出会えれば、飯能市・天覧山でサシバの渡り調査グループと携帯電話で連絡を取り合えるのも楽しみです。

真っ赤な彼岸花も楽しめます。



カワセミ(大澤 祐)



観察ポイント

多和目橋の堰付近、天神橋の堰付近、城山橋の歩道からと堰付近、鳥合せ場所周辺、そして足元に気を付けて空も見上げてください。

思い出

埼玉県支部のリーダーであった故吉田時規氏に、「ヤマセミを見たいのなら、夜明け前に高麗川に来てくださいよ」と言われて、初めて見せて頂きました。7年程前でしょうか。

地元の自然観察会の人達が主体となって、営巣場所に近づかない様にと、坂戸市役所において看板とロープを張って、車が進入出来ない様に頂きました。

ところが残念ながら、看板には「子供の遊び場をとるのか」等の落書きをされ、ロープはずたずたに切られました。

心無い人達が営巣場所の近くで、一日中バーベキューをしたり大騒ぎをしたりしていたそうです。

親鳥が餌を運ぶ事が出来なくなり、巣を放棄してから以降、この周辺では姿を見る事が出来なくなりました。

期待

高麗川と言えば「ヤマセミ」が目玉でしたので、見られなくなり残念でたまりません。しかし、近い将来また帰って来る事に期待しています。

12年間の観察会での観察種数は81種（4頁参照）です。内陸部であることを考えると、多くの鳥が観察できる良い探鳥地です。



キジ(落合英二)

高麗川の野鳥

No.	西暦年	94	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	12年間 33回/%
	月	9	2 6 9	2 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	3 6 9	
1	カイツブリ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	31/94
2	カワウ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	27/82
3	ゴイサギ		●		●		●	●	●●●●				●		8/24
4	ササゴイ					●									1/3
5	ダイサギ	●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	26/79
6	チュウサギ			●				●	●●●●	●			●		6/18
7	コサギ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●			●●●●		24/73
8	アオサギ	●		●●●●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	21/64
9	オシドリ							●					●●●●		3/9
10	マガモ	●●●●	●		●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	●	20/61
11	カルガモ	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	32/97
12	コガモ		●												1/3
13	オカヨシガモ						●								1/3
14	ミサゴ				●										1/3
15	トビ					●	●	●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	12/36
16	オオタカ		●		●●●●	●●●●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	20/61
17	ハイタカ	●										●			2/6
18	ノスリ	●		●		●●●●		●		●	●				7/21
19	サシバ		●	●		●	●	●							4/12
20	タカSP	●													1/3
21	ハヤブサ					●									1/3
22	チョウゲンボウ			●●●●	●●●●			●	●		●●●●		●●●●	●	10/30
23	コジュケイ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	21/64
24	キジ	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	21/64
25	クイナ					●									1/3
26	バン	●●●●	●		●	●●●●	●●●●	●●●●	●	●	●	●	●		16/48
27	オオバン								●						1/3
28	コチドリ					●	●	●		●	●●●●	●●●●	●●●●	●	11/33
29	イカルチドリ	●●●●	●●●●		●	●●●●	●●●●	●	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	23/70
30	イソシギ	●	●●●●	●●●●	●	●●●●	●	●	●●●●	●		●●●●	●●●●	●	18/55
31	キジバト	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	33/100
32	カッコウ			●			●		●	●		●	●		6/18
33	ツツドリ					●									1/3
34	ホトトギス					●			●			●	●		4/12
35	ヒメアマツバメ	●				●		●		●					4/12
36	アマツバメ									●		●	●		3/9
37	ヤマセミ	●●●●				●	●		●						6/18
38	カワセミ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	33/100
39	アカゲラ	●						●							2/6
40	アオゲラ				●					●			●	●	4/12
41	コゲラ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	●	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	26/79
42	ヒバリ			●	●		●●●●	●					●●●●	●	9/27
43	ツバメ	●	●●●●	●	●●●●	●●●●	●●●●	●	●●●●	●●●●	●	●●●●	●		21/64
44	コシアカツバメ	●●●●													2/6
45	イワツバメ	●	●	●	●	●●●●	●	●	●	●	●				11/33
46	キセキレイ	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	●●●●	●●●●	●	●●●●	●●●●	●	27/82
47	ハクセキレイ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	32/97
48	セグロセキレイ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	33/100
49	ビンズイ							●							1/3
50	タヒバリ										●		●		2/6
51	ヒヨドリ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	33/100
52	モズ	●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●	29/88
53	ミソサザイ												●		1/3
54	ジョウビタキ	●			●	●	●	●	●	●	●●●●	●	●	●	11/33
55	ノビタキ									●		●			2/6

56	トラツグミ							●									1/3
57	アカハラ											●					1/3
58	シロハラ							●					●				2/6
59	ツグミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12/36
60	ウグイス	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	22/67
61	オオヨシキリ	●		●	●			●	●	●	●	●	●	●	●		9/27
62	セツカ		●		●	●			●				●				5/15
63	エゾビタキ											●					1/3
64	エナガ			●	●			●●				●●		●	●	●	9/27
65	ヤマガラ			●				●							●		3/9
66	シジュウカラ	●	●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	32/97
67	メジロ	●	●●●	●		●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	19/58
68	ホオジロ	●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	32/97
69	カシラダカ	●	●	●	●	●						●	●	●			8/24
70	アオジ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12/36
71	カワラヒワ	●	●●●	●●●	●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●	31/94
72	マヒワ			●													1/3
73	ベニマシコ											●		●			2/6
74	イカル		●			●	●	●	●		●		●	●	●	●	12/36
75	シメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12/36
76	スズメ	●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	33/100
77	コムクドリ				●												1/3
78	ムクドリ	●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	33/100
78	カケス	●	●	●				●				●	●		●	●	8/24
79	オナガ		●●●	●●●	●	●●●		●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	26/79
80	ハシボソガラス	●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	32/97
81	ハシブトガラス	●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	●●	33/100

**ツグミの大きさについての個人的お粗末
蟹瀬武男(さいたま市)**

今年3月11日(土)、さいたま市桜区昭和の通称大久保農耕地A区で撮影したツグミの写真です。左手前が普通の大きさで、他にも周辺に2〜3羽いました。右奥がやたら大きく見える問題の個体です。

図鑑などをあらためて見直しても、ツグミの全長は24cmとしか書かれていません。手前の個体が24cmなら、奥の個体は30cm以上になるのでしょうか。これはどういうことでしょう。思い悩んで山科鳥類研究所にメールしてみたたら、標識研究室の茂田良光さんから、次のような返事がありました。

「(前略)確かにかなり大きな個体に見えますが、ツグミは雄・成鳥、雄・幼鳥、雌・成鳥、雌・幼鳥の順にサイズが小さくなります。写真の大きなサイズの個体は、羽色、大雨覆から雄・成鳥です。隣の小さな個体は、羽色、大雨覆から雌・幼鳥に見えます。サイズには個体差があり、特に大きな雄・成鳥と特に小さな雌・幼鳥が並んだらこのくらいに見える



と思います。通常の個体差の範囲内でもいいと思います。バンディングして、ツグミの大きな個体で、足環を普通ツグミに付ける4番サイズより、5番サイズを付けた方がいい個体はたまにいます。(後略)」

へええ、こんなに個体差があるのか、図鑑にも最大値と最小値を書いておいてほしいよな、とぶつぶつ言いながら、ツグミの大きさについてさえ十分な知識がないことがあらわになった、個人的お粗末の一幕でした。

要するに、図鑑の「全長」は、ひとつの目安にすぎないということですね。



野鳥情報

桶川市若宮 ◇3月2日午前6時30分、自宅ベランダ南側よりウグイスの初鳴き。昨年より6日早い(立岩恒久)。

桶川市西口公園 ◇4月15日午前7時30分、ヒヨドリの渡り、30羽+が南西から北東へ(立岩恒久)。

蓮田市黒浜 ◇3月8日、療養所内でアカハラ1羽、シロハラ2羽、キジ♂1羽。コジュケイが4ヶ所でけたたましく鳴いていた。ホオジロ1羽、カシラダカ20羽+、ウグイス3羽+、カケス9羽、クロジ♂1羽、キクイタダキ2羽、コゲラ2羽、ヒガラ1羽、シジュウカラ20羽+、モズ1羽、アオジ3羽。3月12日、アカハラ1羽が降りていたところにもう1羽飛来。後から来た方が体色が濃く♂と思われる。シロハラ、カシラダカ、ホオジロ、アオジ、コジュケイ、ウグイス、ツグミ、シジュウカラ、シメ、カケスなど(本多己秀)。

蓮田市笹山 ◇4月16日、田んぼでミヤマガラス30羽、アオサギ、ヒバリ、ツグミ、ツバメなど(本多己秀)。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇3月5日～3月27日、自宅脇の水路でカワセミ2羽、「チーチー」と鳴きながら、追いかけてあったり、2羽で並んでとまったりしていたが、3月28日以降は確認できず。以前から1羽いるのは知っていたが、2羽一緒にいるのは初めて見た。本下水になつたので家庭排水はほとんど流れ込まなくなつたけれど、それにしても3面舗装のこんな所で魚がとれるのだろうか。栄養状態は悪くなさそうだったが。4月1日、ツバメ1羽(藤原寛



ムナグロ(本多己秀)

治)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月13日、「チュチュ、チュチュチュ」と2連音または3連音の可愛い声。主を探したらミソサザイだった。ここでは初めて。上空をハヤブサ通過。その遙か上空をツミ?が舞っていた。カワウ、セグロカモメ成鳥、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ。村国池でマガモ♂1羽♀1羽、タヒバリ、モズ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ホオジロ、シメ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ♂1羽♀2羽など。4月8日、ヒレンジャク2羽。4月12日、ヒレンジャク2羽、キツタの黒い実をたべて、時折「チリリリリ…」とか細い声で鳴いていた。4月13日、ヒレンジャクは全部で4羽とのことだが、自分は最大3羽しか見つからなかった。4月14日、ヒレンジャク3羽、カケス1羽、アカハラ、シメ、ツバメなど。4月16日、ヒレンジャク1羽がプレーキテストコース南端の柳の木にいた。ツグミ、アカハラ、シロハラ、シメ、アオジなど。◇3月18日、ベニマシコ♂1羽。3月26日、釣堀のそばのアシ原でゴイサギ幼鳥1羽。オオジュリン4～5羽、その内の1羽は頭部がだいぶ黒っぽくなっていた。4月2日、アカハラ1羽、ゴイサギ幼鳥1羽、ジョウビタキ♀1羽(藤原寛治)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇4月14日、ケリ2羽確認。今年は繁殖できるか、まだのんびりしている様子。4月24日にも確認(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇3月17日午前9時15分、ツバメを見る。3月18日午前11時40分にもツバメを見る(新井勇吉)

さいたま市緑区 ◇4月8日、見沼田んぼで2羽のツバメを見る。4月9日、さら数羽のツバメが飛来(落合英二)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇3月18日午前8時50分、ピクニックの森でキレンジャク2羽(新部泰治)。

さいたま市浦和区大原サッカー場付近 ◇3月31日、グランド脇の桜が満開、北風が冷たく春まだ遠しと思わせるが、上空にツバ

メが1羽舞い、チョウゲンボウがホバリングしていた。足元にツクシが顔を出しタンポポが咲いて、やはり春だ(赤堀尚義)。

さいたま市北区日進町1丁目 ◇4月4日～28日、林から継続してツミの鳴き声が聞こえる。1度姿もちらりと見た。繁殖する可能性もあるが、過去にはカラスの妨害で失敗したことも多かったので結果がどうなるかわからない(森本國夫)。

さいたま市見沼区大谷環境広場 ◇4月11日、イカルチドリ2羽、コチドリ2羽、タシギ2羽、ツグミ、カワラヒワ、ハクセキレイなど。4月14日、クサシギ1羽、タシギ3羽など(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区深作調整池 ◇4月16日、オオジュリン8～10羽、ジシギ類4羽、カワセミ1羽、ゴイサギ、ツバメ、カイツブリ、コガモ、オカヨシガモ、カワウなど(本多己秀)。◇4月17日、チュウサギ2羽、コガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモなど。目の前でモズが交尾(鈴木紀雄)。

さいたま市北区土呂1丁目 ◇4月13日午前7時20分頃、ヒヨドリの渡り、約30羽北西へ(藤原寛治)。

さいたま市北区宮原町4丁目 ◇4月13日午前7時30分頃、ヒヨドリの渡り、約100羽、北西へ(藤原寛治)。

戸田市道満彩湖 ◇4月14日午前10時30分、オオヨシキリの声(江浪功)。

上尾市泉台 ◇4月15日午前7時5分、大宮ゴルフコースでヒヨドリの渡り、30羽+が南西から北東へ。4月18日、同所でオオルリとコガラのさえずりを聞く。ヒヨドリの渡り、40羽+が北東へ。4月23日午前6時40分、アオジさえずる(立岩恒久)。

上尾市中分氷川神社 ◇4月18日午前6時30分、センダイムシクイさえずる(立岩恒久)。

越谷市七佐町8丁目 ◇3月20日午前6時45分、イチョウの木にコゲラ2羽飛んできてとまる。3月20日午前7時、自宅でシラコバトの鳴き声を聞く。南の方で鳴いていた。午前7時30分、自宅の庭でシジュウカラ3羽、梅の木にとまる。4月1日午前6時、シラコバトの鳴き声を聞く(小菅靖)。

No.265の続き(質問事項は先月号を参照)

「県内鳥見、年間オーバー100への道」

植平 徹さん(越谷市)

- ① とにかく自然の中で見ること。珍鳥は追いかけない。
- ②と③ 季節が巡って同じ鳥が帰ってくる。「また会えたね」と感動して記録を意識するようになった。
- ④ 会社人間だった自分にとって人と接する機会が少なくなった。だから、人との繋がりが楽しい、会えるから楽しい。
- ⑤ ビギナーだった頃の心を忘れない。先輩の話をよく聞く。
- ⑥ 夏鳥をねらって初夏の三峯、夏は谷津干潟や三番瀬。秋は松伏記念公園、加須はなさき公園、羽生水郷公園など。冬はいっぱいあるけれども一番は渡良瀬、羽生水郷公園、久喜の菖蒲公園は絶対がいい。
- ⑥ 退職前から野鳥の本は読んでいた。仲間もいなかったし、観察会に出るのは何となくおっくうでした。
しかし、一度飛び込んでみようと思ってきました。それが2回、3回となるにつけ、人を覚え、覚えると挨拶を交わすようになりました。やって良かったと思います。とにかく、人と接し、鳥を通して共通の話題で交流することが実に楽しい。

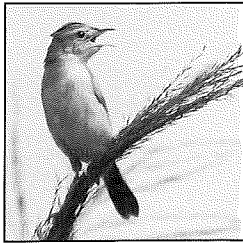
表紙の写真 スズメ目カササギヒタキ科 サンコウチョウ属サンコウチヨウ

小さな公園にサンコウチョウがやってきた。尾羽の長いオス。虫を探してあちらの枝にヒラヒラ、こちらの枝にヒラヒラ。とても忙しい。時折強めに吹く風を受けると、体が流される。こんなに小さな体で渡ってきてくれたのだ。森の中の天使を見た心地。

長谷川訓寿(上尾市)



行事案内



セッカ(古澤洋子)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：6月3日(土)

集合：午前 8 時 50 分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後バスで現地へ。または午前 9 時 30 分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:13→久喜 8:27→羽生 8:46 着。または JR 宇都宮線大宮 7:55→久喜 8:15 着で、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：長嶋、中里、和田、榎本(秀)、宮下、四分一、栗原、植平、飛田

見どころ：木々の緑も色濃くなり、風にそよぐ姿も誇らしく美しくなりました。鳥たちは今子育てに忙しい時。そっと観察しましょう。何か新しい発見があるかもしれません。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月4日(日)

集合：午前 9 時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:40 発で「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：紫色に熟した桑の実がさがる小道。パン、カルガモ、カイツブリの子育て。流れてくるカッコウの声。ホトトギスが登場すると、「ほととぎす一声夏をさだめけり」(蓼太)となるのだが。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：6月4日(日)

集合：午前 9 時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス 1 番乗り場から、浦和美園駅経由埼玉スタジアム行き 8:31 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、藤田(敏)

見どころ：緑が美しい季節、夏の主役たちが勢ぞろい。オオヨシキリ、カッコウの声を聞きながら入梅前のひと時を楽しんでください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月11日(日)

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：榎本(秀)、中里、和田、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(敏)

見どころ：梅雨の晴れ間の青空を、ツバメがついっと飛び、揚げヒバリが朗らかに舞い上がります。オオヨシキリの大合唱、カッコウの声。これがこの季節の大麻生です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月17日(土)午後3時～4時ころ
会場：支部事務局108号室(周辺が少し変わりました。浦和駅西口から県庁通りを進み、三菱UFJ信託銀行角を左折、高層ビル角の信号を直進、次の三つ又の真ん中の道を進んで、右側です。)

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月18日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野沢
見どころ：芝川の工事は上新宿橋から大道東橋を越えて、大道橋に進み、カワセミのいる淵も、パンの住むアシ原も無くなってしまいました。環境に配慮した(?)土の土手、ヘドロの除去等が、たくましい自然を回復してくれることを期待しています。三室の自然や鳥たちの変化ウォッチングに、毎回お出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月18日(日)
集合：午前9時、東武越生線川角駅前。
交通：東武東上線川越8:13→坂戸で越生線乗り換え8:42発。または寄居7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮7:35→川越で東武東上線乗り換え。
担当：藤掛、高草木、青山、久保田、志村、増尾、佐藤(荘)、池永、杉原、林、原、藤澤、持丸、高橋(優)、山田(義)
見どころ：梅が実る梅雨どきは、子連れ鳥たちが見られるころ、今年はキジの子連れが見たいですね。緑濃くなった川辺ではオオヨシキリの賑やかなお出迎えもありますよ。

平成18年度支部総会のご案内

日時：6月25日(日)
午後1時 受付開始
午後1時30分～2時30分 記念講演
午後2時30分～4時30分 総会
会場：さいたま市浦和区高砂3-1-4 埼玉会館3階3C会議室(浦和駅西口から県庁通り徒歩6分右側。建物に向って左下の入口からお入りください。)
記念講演：原元奈津子(本部総務室長)「野鳥の会本部事務局の話あれこれ」
総会議題：平成17年度事業報告と決算報告、平成18年度事業計画と予算案、平成18年度役員選出。
支部会員であればどなたでも参加できます。前年度の支部活動を振り返り、今年度の方針や予算を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。
総会終了後、支部事務局内で懇親会も予定しています。

夏鳥調査の注目種はサシバ!!

研究部が担当して、県内全域を対象に、夏鳥調査を実施します。

5月10日から7月10日までの間に、県内で観察された野鳥の種名と観察地を、6月号に同封されている夏鳥調査はがきに記入して、お送りください。

今回の夏鳥調査の注目種はサシバです。秋の渡りで良く見られるサシバですが、1985年から1990年までの第一次県内野鳥分布調査夏鳥の部では、25,000分の1地形図を4分割したメッシュで、19メッシュ確認されています。

第一次調査から10年がたち、サシバが繁殖する里山とその周囲の自然環境は様変わりしました。オオタカと比べて繁殖に対する注目度の低いサシバの今を、調べましょう。

(小荷田行男)



行事報告

1月22日(日) 狭山市 入間川

参加：19名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 41種の鳥が見られたのになんとなく物足りない。全体的に個体数が少ないせいだろうか。特に冬鳥は数も種類も少ない。よかったのは、久しぶりにセキレイ5種が勢揃いしたこと。中でも近くで見られたビンズイがきれいだった。(長谷部謙二)

2月4日(土) 狭山市 智光山公園

参加：51名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オオタカ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 当公園初の探鳥会は、51名の参加を得て盛況のスタート。ところが、「冬鳥が少ない」というこの冬の状況は、当地も例外にはしてくれず、出現種は28種にとどまった。それでも、釣堀の柱に止まったカワセミを全員がゆっくり観察できたほか、池のカモ類も間近に観ることが出来た。初めて当公園にお出でになった皆さんにも、探鳥地としての魅力を充分ご理解いただけたことと思う。(石光 章)

2月5日(日) 嵐山町 菅谷館・都幾川

参加：76名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ オオタカ ノスリ

チョウゲンボウ イカルチドリ クサシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 冬晴れの絶好の探鳥会日和。地元「比企里やまの会」等からの参加者もあり、総勢76名。下見では出現しなかったアカゲラ、チョウゲンボウやカラ類の混群に大はしゃぎ。久しぶりににぎやかで楽しい探鳥会だったのでは。(後藤康夫)

2月5日(日) 北本市 石戸宿

参加：41名 天気：晴

カワウ トビ オオタカ ノスリ キジ オオバン キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ウグイス ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 開始直後にふれあい橋でルリビタキが出現し、大騒ぎだった。高尾の森近くのハンノキにノスリの若鳥が止まり、10mほどの近距離から全員でじっくり観察することができた。青空をバックにオオタカが帆翔し、湿地ではベニマシコが飛び回っていた。出現鳥は少なくとも楽しい一時を過ごせた。(岡安征也)

2月5日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：43名 天気：晴

カイツブリ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オカヨシガモ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 北風が吹き、この冬を象徴するような寒い1日。風を避け、斜面林を回るコースを歩く。数は少ないが、ある程度の種類の冬鳥を楽しむことができた。確かに、この冬は冬鳥が少ない。来冬はたくさん鳥たちを見たいと願うばかりである。(手塚正義)

2月11日(土、休) さいたま市 大宮市民の森

参加: 60名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ コジュケイバン オオバン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 暖かい日。期待して開始するが、鳥影が少ない。今年は冬鳥が少ないねと話し合う声が耳に入る。下見の時、数が少なかったことが頭をよぎる。気を取り直して芝川沿いに出るとカワセミが出現。助かった。カワセミ君ありがとうと心の中で手を合わせる。それからは順調に出現し、クイナは残念だったが、鳥合わせをしてみると39種を数えた。(工藤洋三)

2月12日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 50名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ タゲリ ハマシギ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 朝から風が強く、状況を説明してから下宮橋を渡る。谷中湖は干し上げて鳥影は遠い。カモ類、アオサギ、ダイサギ、コサギやカモメ、カラスやカワウが湖底の泥の上を歩いている。すり鉢状の底から見る周りのコンクリート護岸は、野鳥たちにどう映るのか。それでも水脈筋にミコアイサが目立つ。足早に谷中湖を抜けて鷹見台まで歩くも、風が強くワシタカの出現も少ない。それでも頭上にミサゴが飛び、土手から2m前後の空中にノスリが羽ばたきもせず止まっていた。観察は35種と、ちょっと寂しかったけれど、これも渡良瀬の姿だ。(内田孝男)

2月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 20名 天気: 晴

カワウ カルガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 冷たく強い風が吹きすさぶ朝になった。風を避けて野鳥の森へのコースをとった。土手に出るとモズが随所で見られた。この場所はモズにとって餌とりに打って付けの環境なのだろうか。ほぼ一年中見られる。森の中に入ると、けたたましいノスリの鳴き声が聞かれた。そして河原では梢に止まっているところをじっくり観察することができた。枯れ木のクヌギ林では樹冠をツグミが飛び交っていた。ようやくその数が増えてきた。最後に前回の探鳥会とほぼ同じ場所でミヤマホオジロが出て、皆を楽しませてくれた。(中里裕一)

2月15日(水) 戸田市 彩湖

参加: 50名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ ヨシガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサバン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 朝から風もなく暖かい。池の周りでバン、オオバン。湖に出るとカンムリカイツブリが。中には夏羽に変わり始めた個体も。釣堀の林や草原では、シメ、ジョウビタキ。再び湖に出てヨシガモ、ミコアイサを見る。1月と同じような状況で解散地。(倉林宗太郎)



坂東大橋探鳥会



この冬の北海道の思い出は、ホオジロガモのイナバウアー (藤掛保司)

連絡帳

●渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地に

「渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会(代表世話人高松健比古=本会栃木県支部長)」からの呼びかけに応じて、「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地に」署名運動に、当支部は取り扱い団体として参加することを、4月16日(日)の役員会で決めました。

趣意書と要望書(署名簿)は、支部のホームページからダウンロード、印刷できるようにしました。あるいは、支部事務局にご連絡いただければ、郵送も致します。署名の済んだ用紙は、内田孝男()にお送りください、内田幹事が当支部の取りまとめ役を担当しています。

当面予定している署名活動期間は1年間。230種以上、その内絶滅危惧種25種の鳥類を育てている貴重な湿地の保全に、どうかご協力をお願いします。

●吉野川河口の自然を守るための団体署名に参加

本会徳島県支部から、吉野川河口の自然環境

を破壊する「四国横断自動車道・吉野川渡河橋」のルート変更について、団体として署名を求める呼びかけが届きました。

これも4月16日(日)の支部役員会で検討し、「生き物たちのゆりかご」と言われる干潟の重要性を考え、国際的に重要な湿地である吉野川河口域の生態系を保全するために、埼玉県支部として団体署名することにして、徳島県支部にそのことを伝えました。

詳しいことは、支部ホームページでご覧いただけるようにしてあります。

●事務局の予定

- 6月3日(土) 編集部・普及部会議。
- 6月10日(土) 7月号校正(午後4時から)。
- 6月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 6月18日(日) 役員会(午後4時から)。
- 6月25日(日) 支部総会(詳しくは行事案内欄をご覧ください)。

●会員数は

5月1日現在 2,297 人です。

活動報告

- 4月8日(土) 5月号校正(海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司)。
- 4月16日(日) 役員会(司会:大坂幸男、各部の報告・署名活動・関東ブロック協議会の会場と日程・その他)。
- 4月20日(木) 5月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

渡りのシーズンということで、少し早めに出勤して職場の構内で観察していたら、ムシクイ類の他に久々にキビタキミを見られた。早出は三文の得。こう書くと、どんな職場だといふかしがる方もあるだろうが、敷地が広くてツミが繁殖したこともあるという恵まれた環境なのだv(^)。 (Moto)

しらこぼと 2006年6月号(第266号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社